
宝石図鑑

花木静

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

宝石図鑑

【Nコード】

N0104Z

【作者名】

花木静

【あらすじ】

求婚し続けてふられ続けたばく。千文字程度のごく短い小説です。

残酷だ。残酷だ。あなたはぼくを切り刻む。ぼくの心臓をめちやくちやにして食べる。そして不味いと言わんばかりに放り出す。まるでぼくに心がないとでも思っているかのようだ。あなたは、悪魔だ。

「あなたがくれた宝石、全部質屋に売っちゃった。ルビーも、ダイヤモンド、ラピスラズリも、琥珀も、真珠も。ゼーんぶよ。宝石図鑑ができそうなくらいたくさんくれたけど、いらなかったの。あなたは宝石イコール愛だと考えていたようだけど、あなたの愛なんていないの。わたしは自由でいたいんだから」

そう、あなたは言い放った。白髪を上手にまとめ、しみはないけれどしわのある顔をし、杖を横に揺り椅子に座っているあなた。何十年経っただろう。求婚を始めてから。ぼくはすっかり禿げ上がったしまったし、右目は始終涙がとまらない状態になってしまった。この老人ホームで暮らすあなたを追いかけてきたぼくは、何十年経ってもあなたの奴隷であり、僕だ。あなたにいいように扱われ、左目からも涙が溢れ出すぼくを、ホームの職員や老人たちは怪訝な顔で見つめている。

「あなたってすぐ泣くのね。苛々するわ。わたしはね、あなたの愛なんて」

「登紀子さん」

五十代くらいの若い男があなたに近寄ってきた。何か小さな箱を手にして。この男は何なんだ。あなたの名を呼んだりして厚かましい。あなたは少し目を見開き、

「雄一郎、それはあとで」

と素っ気なくつぶやいた。「雄一郎」だって？ あなたは一体この男とどんな関係なんだ。

「そう言わずに、見てよ、登紀子さん」

男はあなたが厳しい顔をするのも構わず近寄ってきて、繊細な細工がされた木の箱を開いた。

「ほら、宝石図鑑みたいでしょう?」

まぶしく輝くルビー、ダイヤ、ラピスラズリ、琥珀、真珠、その他の宝石。これは、ぼくがあなたにあげた。

「雄一郎!」

「ひどいなあ。自分のおばに宝石箱をプレゼントして、どうして叱られるの? だって、宝物なんだって言ってたじゃないか」

「お下がり」

男は不満げな顔であなたを見つめると、あなたの前のテーブルに宝石箱を載せて、

「米寿の誕生日、おめでとう」

と言つて身を翻した。あなたはの間ずっと顔をホームの窓の外へ向けている。

「宝物なのよ」

あなたはぽつりとつぶやいた。

「宝物なの」

ぼくは両目から涙を落とした。涙はとまらなかった。ホームは暖かく、優しかった。

《了》

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0104z/>

宝石図鑑

2011年11月30日20時04分発行